

摂津市教育長 若狭 孝太郎 様

2025 年 4 月 9 日

日本共産党摂津市議会議員団

野口博 安藤薫
弘豊 増永和起

安全担保のない大阪・関西万博「こども無料招待事業」への参加中止を求める緊急申し入れ

4 月 13 日の大阪・関西万博開催まであと 4 日となりました。

開催直前、4 日から行われた「テストラン」最終日の 6 日、万博協会は会場西側の「グリーンワールド(GW)工区」にある屋外電気設備の地下ピットで爆発下限値である 5vol%を超える濃度のメタンガスを検知したことを明らかにしました。この場所は、昨年 3 月 28 日、工事中に発生したガス爆発現場の近くで、万博協会は様々な対策を取っているとしていました。

今回の件は、日本共産党守口市議会議員の寺本健太氏が、自ら検知器を持参し電源を入れた状態で会場内を視察、引火によって爆発のおそれがある最低濃度(5vol%)を超えるメタンガスを検知したことから明らかになりました。寺本氏が午後 4 時ごろに消防に通報し協会側も基準値を超える数値を確認したことから、来場者等の立ち入りを規制し、電気設備地下ピットの蓋を開放して自然換気を実施し基準値内に低下したとのことでした。

万博協会は「GW工区におけるメタンガスの検知について」において、モニタリングの頻度をあげるなどの対応を示しましたが、昨年の爆発事故以降の対策の不十分さ、また検知後の寺本氏の通報に対する極めて緩慢な対応など危機意識の低さを改めて露呈したと思います。

そもそも、バス乗降場所や西ゲートがある夢洲 1 区は、現役の廃棄物処分場です。この間、83 本のガス抜き管から一日あたり約 1.5～2 トンのメタンガスが発生しており、今後も同様の事態が発生することは容易に予想されます。

大阪府の「万博子ども招待事業」について、摂津市では各学校の判断にまかせ、4 月 17 日に来場を予定している小学校をふくめ 6 小学校が参加するとされてきました。そのうち 1 小学校ではテストランでの検証の結果、参加を見送ることになったとのことでした。

教育長は、昨年の第 2 回定例会で「児童・生徒、子供たちの安全が担保できないと教育委員会が判断した場合、中止、または延期、あるいは計画の練り直しを校長に指示する」と答弁されました。

万博開催直前になってもこのような危険な状況が改善されていない以上、教育委員会として参加校の計画書に対して危険性などを指摘し「中止」を促すべきです。

以上のことから、下記の点について強く求めます。

記

1. 招待事業に参加を予定している学校に対し、安全担保の観点等適切な指導をおこない「中止」を促すこと。
2. 招待事業参加中止の趣旨を児童生徒及び保護者に周知すること。
3. 同内容を市ホームページ及び市広報に掲載すること。

以上